郡山市立富田中学校
学校だより
No.21

手をたずさえて

“富中PRIDE”～自信と誇り～

自ら学ぶ生徒
正しく行動する生徒
健康でたくましい生徒

令和元年９月４日（水）発行
【発行責任者】郡山市立富田中学校長　熊 坂　　洋

「人はなぜ学ぶのか？」　吉田松陰の言葉

２年前にも同じ内容のたよりを発行しました。第２回定期テストを間近に控えた今、生徒のみんなには、「人はなぜ学ぶのか？」ということについて考えてほしいと思います。

江戸時代末期、長州藩の「松下村塾」において、討幕運動を推し進めた久坂玄端や高杉晋作、明治になり初代内閣総理大臣となった伊藤博文、陸軍の基礎を築いた山県有朋など、明治維新を成し遂げた中心的な人物をわずか１～２年という短い期間で教え導いた吉田松陰。

松陰は、「人はなぜ学ぶのか？」という問いに対して、こう答えました。

凡そ学をなすの要は己が為にするあり。己が為にするは君子の学なり。人の為にするは小人の学なり。

（何のために学ぶのかといえば、自分を磨くためです。自分のためにする学びこそが、善い人間を志す人の学びです。人に褒められるために学ぶことは、とるに足らない人の学びです。）

さらに松陰は、こう続けました。

学というものは進まざれば必ず退く。故に日に進み、月にすすみ、ついに死すとも悔ゆることなくして、初めて学というべし。

（学ぶということは、続けていないと必ず後退してしまいます。毎日続けていくことで、学びを体にしみこませていき、死ぬ時になって後悔がないようにしなければ、学んだとは言えません。）

松陰は、人が学ぶのは、人に評価をしてもらうためでなく、自分を磨くためであり、継続しなければ意味がない、と言っています。

「自分を磨くために学ぶ」という答えは、「何のために学ぶのか？」を超えて「人は何のために生きるのか？」という問いの答えにもなっているようにも思えます。つまり、「生きること」＝「学ぶこと」になるということです。そして、「自分を磨く」ために、今必要なことは何かと考えみると、「自分に足りないもの」「自分に本当に必要なもの」が見えてくるはずです。

今の自分に足りないものは何か、本当に必要なものは何か、ということをよく考え、自分を磨いていく。毎日の授業、生徒会活動、部活動、そして人間関係づくり等、様々な場面において、自分を磨くために学び続けていくこと。富中の生徒、そして教職員が共に「今、なぜ学ぶのか？」という問いに真剣な気持ちで向き合っていくことがとても大切だと考えています。

今、大切にすべきこと

１　目的意識の明確化

中学校卒業後の見通しとして、「何のための進学なのか」、「高校等で何をするのか」という、目的意識についてしっかりと考え、自分の言葉や文章で明確に表現できるようにする。

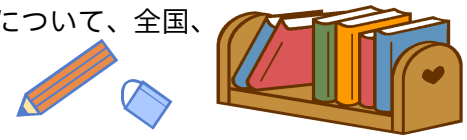
２　学力を下から支えるものの重要性

生活のリズム、食事、睡眠、健康管理、携帯・スマホの使用、さらには、あいさつ、善悪のしっかりした判断に基づく行動など、学力を下から支える様々なものをよりよいものにしていきたい。

３　進路実現に向けて踏まえておきたいこと

高校入試はひとつのゴールラインであっても、最終ゴールではない。その先の生き方を見据えるとともに、途中で目標や計画の変更を余儀なくされることもある。将来は変わっていい、迷っていい、悩んでいい、ということ。目標・計画を見直し軌道修正していく力、リカバリー（回復）する力、想定外のことにひるまず立ち向かう前向きでポジティブ（前向き）な気持ちや姿勢が重要になる。

令和元年度全国学力・学習状況調査の結果から



４月18日に３年生で実施された「全国学力・学習状況調査」について、全国、福島県、郡山市の結果が公表されました。

調査内容は、以下の通りです。

（１）教科に関する調査‥国語、数学、英語

※　今年度より国語、数学では、Ａ（知識）とＢ（活用）が統合され、新たに英語が加わった。

（２）質問紙調査‥学習意欲、方法、環境や生活の諸側面等に関する調査

本調査の結果は、特定の教科の一部分であり、学校における教育活動の一側面を表したものであるとともに、４月に実施された調査のため現在の実態とは違っている面もあると考えます。あくまでも３年生の４月の段階での学力や生活の実態を見る上で一つの目安になるものです。

本校３年生の調査結果は以下の通りです。

【各教科における平均正答率（％）】

※「平均正答率」：各生徒について全設問における正答数の割合を算出した値（個人の正答率）を足し合わせ、生徒の人数で割った値

	全　国	福島県	本　　校
国　語	７２．８	７２．１	**全国・福島県を上回っている。**
数　学	５９．８	５６．７	**全国・福島県を上回っている。**
英　語	５５．９	５２．６	**全国・福島県を上回っている。**

《国語》すべての領域（「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」）で全国・県を上回っている。

《数学》「数と式」、「図形」、「関数」の領域は全国・県を上回っている。「資料の活用」は県は上回っており、全国とはほぼ同じ。

《英語》すべての領域（「聞くこと」、「読むこと」、「書くこと」）で全国・県を上回っている。

【質問紙調査の主な結果】

《よい点》　「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した割合が全国・福島県と同等もしくは上回っている項目は次の通りである。

- □ 学校に行くのは楽しい。　□ 規則正しい生活をしている。
- □ 人の役に立つ人間になりたい。
- □ １日の学習時間（塾や家庭教師から教わる時間含む）が２時間以上
- □ １日の読書時間（教科書、参考書、漫画、雑誌は除く）が１時間以上
- □ 授業の話し合い活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。
- □ 授業で学んだことを、ほかの学習に生かしている。

《課題として考えられる点》

■「将来の夢や目標を持つ。」「自分にはよいところがある。」「難しいことでも失敗を怒れないで挑戦している。」などの項目が全国・福島県より低い傾向にある。目的意識を明確にすることや人と比べて優れているかどうかで自分を評価するのではなく、そのままの自分を認める感覚や「自分は大切な存在だ」「自分はかけがえのない存在」だと思える気持ちを強く持てるようにすることが大切である。

定期テストに向けて、より実践的な取組みが必要になる

（１）学校では‥

①　１時間１時間の授業を大切にする。　②　疑問点は教師に質問し解決する。

③　テストの受け方を再確認し実行する。（入試の鉄則『解ける問題から解く』、つまらないミスがないかどうかを見直す習慣、最後まであきらめない、文字・数字をていねいに書くなど）

（２）家庭では‥

①　学習量を増やす。必然的に学習時間が増えていかなければならない。学習中心の生活。

②　「書くこと」を重視する。（書いて覚える。文章で説明したり表現したりすること。）